

氷見市で採集されたウスイロコノマチョウ

著者	水野 透, 根来 尚
雑誌名	富山市科学文化センター研究報告
号	15
ページ	91-92
発行年	1992-03-20
URL	http://repo.tsm.toyama.toyama.jp/?action=repository_uri&item_id=598

短 報

氷見市で採集されたウスイロコノマチョウ*

水野 透
富山県昆虫同好会
根来 尚
富山市科学文化センター

二橋弘之氏は、大門町在住のアマチュア昆虫研究家で、特にトンボ類について貴重な記録を残している方である(根来, 二橋; 1988, 二橋, 根来; 1992a, b)。

このたび、二橋氏が採集された蝶2頭について、科学文化センターに同定依頼があった。筆者等が同定したところ、2頭とも本県では極めて珍しいジャノメチョウ科の一種ウスイロコノマチョウの雄(夏型)であった。

ウスイロコノマチョウは南西諸島に生息する大型の蝶で、季節風や前線、台風などの気流に乗って日本本土に飛来し、一時的にその地で産卵・発生をすることがあるが、九州以北ではいずれも迷蝶とされている。これまで全国的に記録があり、北海道でも数回採集されているが、いずれの地方でも稀である(福田他, 1984)。

本種が本県で初めて記録されたのは1959年9月2日のことで、高岡市古城公園で山口祐正氏が1雄を採集した(富山県昆虫研究会編, 1979)。2頭目は筆者の一人水野が1975年8月26日に宇奈月町愛本河川敷で採集した雄である(同, 1979.)。今回の記録はこれにつづく3回目のもので、本県で3および4頭目のウスイロコノマチョウということになる。

1991年には、本種が日本本土へ例年になく多数飛来したらしく、長野県、神奈川県、大分県、佐賀県で採集されており(月刊むし編

集部, 1991), また、石川県でも数頭採集されているようであり(翔編集部, 1991)データの公表が待たれる。さらに、富山県でも県東部の海岸での採集が、水野へ口頭で伝えられているが、記録の発表が待たれるところである。

なお、標本は二橋氏の御好意により当センターに寄贈された。貴重な標本を寄贈いただいた二橋弘之氏に感謝申し上げる。

採集記録

ウスイロコノマチョウ

Melanitis leda Linnaeus

氷見市宮田乱橋池, 1♂, 1991-VIII-16(二橋弘之)

氷見市宮田乱橋池, 1♂, 1991-VIII-25(二橋亮)

文 献

福田晴夫他, 1984. 「原色日本蝶類生態図鑑(IV)」:163-167.

根来 尚・二橋弘之, 1988. アオサナエ富山県に産す。月刊むし, 210:41.

二橋弘之・根来 尚, 1992a. 氷見市宮田乱橋池とその周辺部のトンボ類. 富山市科学文化センター研究報告, 15: 81-85.

二橋弘之・根来 尚, 1992b. 富山県西部子撫川流域のトンボ類. 富山市科学文化センター研究報告, 15: 87-90.

月刊むし編集部, 1991. KIROKU+HOKOKU. 月刊むし, 250:6, 10, 25, 27.

翔編集部, 1991. 会員の動き・しゃばの動き. 翔, 93:10.

富山県昆虫研究会編, 1979. 「富山県の昆虫」富山県: 339.

* 富山市科学文化センター研究業績第125号

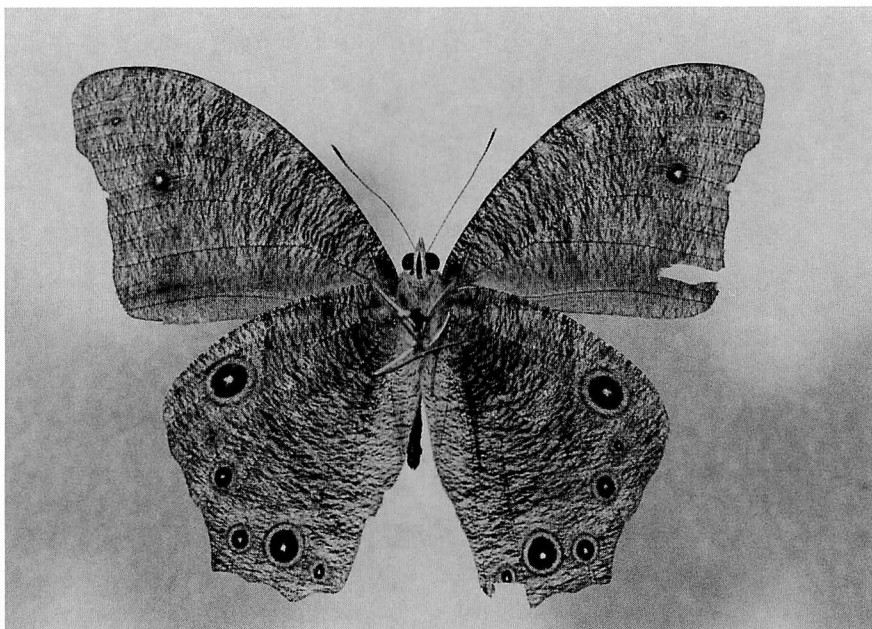


図1. ウスイロコノマチョウ♂ (裏), 1991-VIII-16 (二橋弘之採)

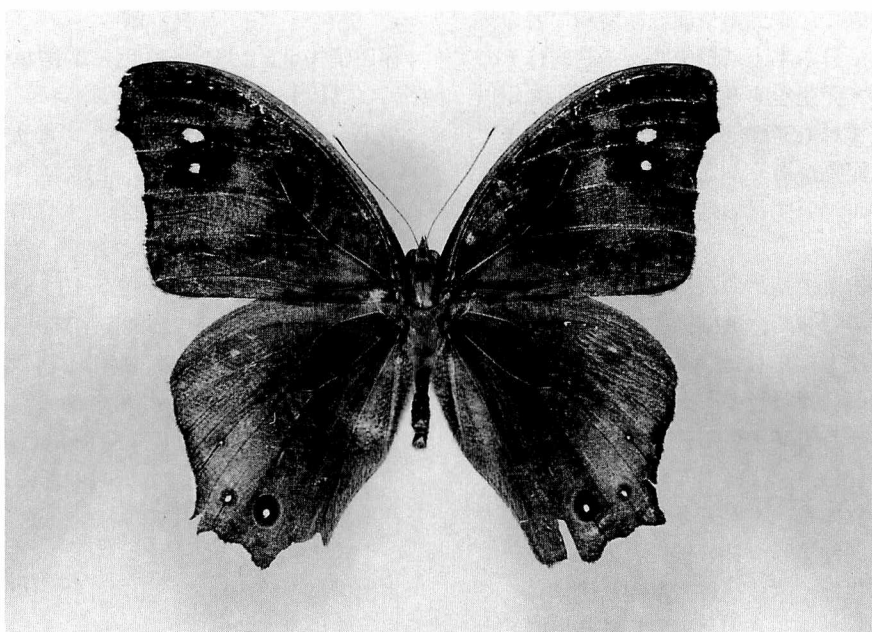


図2. ウスイロコノマチョウ♂ (表), 1991-VIII-25 (二橋 亮採)